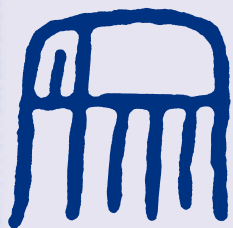
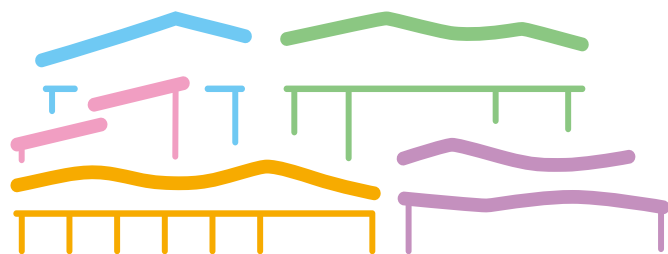


同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 望月 重延
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



NEW
CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

大学名称裁判の報告 ～和解について～

象の会の皆様には、日頃から大学運営に多大な御協力をいただきありがとうございます。

本学は、学校法人瓜生山学園に対し「京都芸術大学」の名称を使用しないことを求めて訴訟しておりましたが、大阪高等裁判所からの和解勧告を受け、7月20日に和解に至りましたことを御報告いたします。

本件につきましては、3月4日の控訴審口頭弁論終結後、裁判所から、和解のための話し合いができないかと打診を受け、裁判所の仲介による和解協議に応じました。

和解調書の写しの全文は、本学ホームページに掲載しておりますが、主要な点としましては、本学は学校法人瓜生山学園が「京都芸術大学」を使用することに異議を述べないこととし、学校法人瓜生山学園は本学が「京都芸大」及び「京芸」を使用することに異議を述べないことといたしました。

象の会の皆様には、署名や費用のカンパなど、訴訟に対し多大な御支援をいただいております。改めまして、御礼申し上げます。

長年、京都芸大を愛し、育ていただいた皆様にとっては、和解という結果は意に沿うものではないかもしれませんが。

本学としなくても、実際に両大学を誤解、誤認混同する

事例があることから、これを解決する判決をいただきたいとの思いを持っておりましたが、大阪高等裁判所から強く和解の勧告を受けたことを踏まえ、また協力関係にある両大学の学生や教員のことを考え、議論を尽くしたのち決断をいたしました。

司法の判断として和解を受け入れましたが、これで誤認混同などの課題がすべて解決するものではありません。先日、象の会・真声会の役員の皆様と和解に関する説明をさせていただいた際にも、今後の大学としての対応について御意見を多く頂戴し、私から、大きな宿題として引き続き取り組んでいくとお答えしたところです。

皆様御存知のとおり、本学は2023年に京都駅東部へのキャンパス移転いたします。これを好機ととらえ、京都芸大を、その活動を、これまで以上に多くの方に知っていただき、京都芸大のさらなる発展と充実に全力を傾注してまいりますので、引き続き御支援賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と、象の会の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

公立大学法人京都市立芸術大学理事長 赤松 玉女

Head line

大学名称裁判の報告 ～和解について～	1	令和3年度後期 芸術資料館収蔵品展	7
大学名称裁判和解説明会の報告	2	新任あいさつ	8
大学名称問題反対署名と裁判支援カンパ活動の報告	2	オンライン芸大祭2021開催決定	9
会長退任のあいさつ	3	Relay Talk 象の会・いろあわせ ⑩	10
大学移転整備について	3	2020年度「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品	11
2021年度役員総会の報告	4	事務局だより	12
同窓生だより《部活／記憶の彼方》野球部 ⑤	6	編集後記	12

大学名称裁判和解説明会の報告

2021年7月20日、本校が瓜生山学園に対し訴えていた京都芸術大学名称使用差止の裁判が和解と言う形で決着しました。本校HPや報道機関のニュースで概要はご承知のことと存じますが、美術・音楽の両同窓会は、大学にその経過、内容、評価などについて説明を求めました。大学にも同意いただき、コロナ対策を取りながら3者共催の説明会を8月10日に大学会館で開催しました。

はじめに赤松理事長から和解に至った経過が説明されました。まとめると【今春に裁判所から和解の打診があった。大学は解決するための判決をいただき筋を通したいとの思いもあったが、度重なる大阪高裁からの打診を真摯に受け止め和解に応じた】とのことでした。

次いで上田副理事長から和解の内容について説明されました。内容は次の通りで、和解調書は大学HPにも掲載されています。

和 解 項 目	市立芸大	瓜生山学園
① 名称：京都芸術大学(英文も)	×	○
② 通称略称：京都芸大、京芸	○	×
③ 登録商標：京都芸大、京芸	○	×
④ 登録商標：京都芸術大学	×	○
○使用できる ×自ら使用しない。相手の使用に異議を述べない <他の和解項目> ・双方へ敬意と誹謗中傷禁止 ・和解内容の連名での公表 ・債権債務の不存在 ・訴訟費用の各自負担		

和解を選択した評価については【1審判決を確定させることなく、我が方が主張した一部は実現できたと考えているが、当初の請求内容が認められなかった点は残念に思う。この結果は、

大学では、名称や略称に係る混乱を避けるため、学校法人瓜生山学園が運営する京都芸術大学を指して「京都芸大」「京芸」が使用されている事例に関する情報を受け付けております。そのような事例がありましたら、該当するURLや画像データなどと一緒に、kyogei_machigai@kcu.ac.jpまでお送りください。※SNS等での個人の情報発信は除きます。(大学総務広報課)

大学名称問題反対署名と裁判支援カンパ活動の報告

京都芸術大学名称使用差止の控訴審裁判は、2021年7月20日に当事者双方で和解したことを受けて美術・音楽両同窓会で運営していた「京都芸術大学の名称を守る会」は、活動を終え7月末に解散いたしました。署名は控訴審の資料として裁判所に提出し、支援カンパは裁判費用として大学へ寄付しました。ご協力ありがとうございました。

最終署名数 24,009 筆(署名簿 18,301、web 5,708)

同窓会裁判支援カンパ賛同者(真声会含む) 258人 192万円
これ以外に両同窓会で100万円(@50万円×2)負担

・大学へ255万円寄付し、他に署名簿印刷、郵券などの事務費37万円を支出しました。

●「象の会」支援カンパ賛同者：214人(内、匿名希望者は48人)

(敬称略、50音順)

浅田真弓、阿佐見徹、芦田裕昭、阿部 緑、池口敦子、池田一良、池田 圭、池田ちしほ、石井加奈子、井尻幸子、出原 司、出原順子、伊藤尚子、伊藤正教、井上明彦、井村清章、井本晴代、岩間 香、上野富二郎、上山八洲子、江藤久子、大垣早代子、大澤安紀子、太田垣幹代、大西裕恵、大野 護、岡田光生、小川絵未、小川治兵衛、奥村博美、落合峯子、小野寺健、小野寺直子、小畑 剛、蔭山裕子、柏木加代子、金光晶紀、カラ

大学のブランディング戦略の不足、危機意識の弱さと情報管理に対する脇の甘さ等も一因と考えており、今後は教員にも活動される際には京都芸大・京芸の略称を使っていただくなどにより積極的な広報に努めたい】等の報告がありました。

両同窓会からも多岐にわたって質問意見が出されました。要約すると「和解とはいえ我々に満足感は無く敗訴と捉える」「敗訴に比べれば和解で『京都芸大』が守られたことは一定評価できる」「なぜこうなったのか？大学は原因を探り反省すべきでは」「情報化やその取り組みが弱く結果として大学の油断や甘さと言えるのではないか」「和解内容が遵守されるよう相手に対するチェック機能を大学で整備すべきと思う」「略称である<京都芸大>がイコール<京都市立芸大>と世間に認知されるよう我々も大学も努力することが大切」などでした。対し大学側から丁寧な回答がありましたが、今回の和解や京都駅東地域移転を期に、我が校が音楽学部を擁する名実ともにメジャーな芸術大学として発展していくため、教員や同窓生・関係者の更なる努力が求められます。

和解の評価は同窓生の立場によって濃淡があり一様ではありません。同窓会も簡単に結論が出せないと思っています。そのため和解内容と説明会の内容をこの会報でお知らせし、併せて和解に関する同窓生各位の意見を広く募集し、一定の整理をした上で大学へ届けたいと考えています。ぜひともご意見をお寄せください。

<2021年12月31日までに差出人の氏名と専攻/卒年を記載して、郵便・FAX・メールなどで同窓会まで送ってください>

(代表幹事：野崎邦雄)

ザス 和子、河合宮幸、河合美和、河嶋菜々、神野立生、木崎佳子、木田雅之、北里桂一、北村芳美、木原美智子、木村喜太郎、木村秀樹、木村牧子、日下部雅生、楠希代子、國方盛行、来見 環、小堀吉隆、小林かをり、小山格平、近藤照恵、齋藤邦彦、斎藤 宏、酒井雅子、佐藤今日子、佐野 賢、正垣雅子、白井伶奈、白山信子、新海 環、鈴木勝久、鈴木幹彦、関 好明、關原真由子、瀬戸川晶子、添田 悟、高木侑里子、高島佐句子、高島麻奈美、高田 泉、高橋久美子、高橋秀雄、滝上真佐子、竹内その子、竹内三雄、田中一好、田中早智子、田中 忍、田中利津子、玉置豊始、茶谷文子、辻喜代治、辻 誠、辻 雅美、辻井義幸、土橋修平、鶴田昭子、鶴田憲次、出井豊二、寺井絵美子、寺西栄子、寺西 靖、徳永杏子、中井貞次、長舛真吾、中越 出、中島智恵子、中西雅子、中西芽実、中西知代子、名取佳子、並河富美代、西川典子、西村敏雄、野崎邦雄、野田直子、橋本美穂、畑 千秋、早川洋子、東浦好洋、兵後幸男、廣田恭子、福永衣里、福久洋志、藤井智美、藤田一郎、藤村香菜子、藤本 強、藤原敏行、船橋穂行、古川加津夫、實光光伸、堀井隆司、本城美沙、舞原克典、牧 雄彦、増谷和代、松谷一恵、松谷昌順、松本佳子、松本友子、松本もと、松本陽子、水野 収、宮本佳美、村岡幸信、望月重宏、森 勝彦、森田洋子、森田りえ子、森本岩雄、森本陽子、山岡隆太、山口啓子、山下華世子、山下義宣、山田京子、山田俊行、山西杏奈、吉岡佐知、吉田祥子、吉田孝光、吉田 猛、吉田雅子、吉濱南海、吉村康恵、米津真理、米津美奈、若杉陽美

会長退任のあいさつ = 裁判和解の所感 =



昨年の夏、10年間務めた同窓会「象の会」会長を、漆工の望月重延先生に交代した。今春に退任挨拶文の依頼を受けたが、諸事情から遅れてご迷惑をおかけした。

当時大学の名称云々の裁判で大学側も揺れていたし、常識では考えられない先方の言い分、と私も受け取っていた。

裁判開始から2年、双方の和解という事で決着を付け、京都芸大側もそれを呑むという形になった。大枝の地に大学が移転した40数年前に続き2度目の先方の申し入れを受けた私にとってはとても了承し難い事と思っていたが、裁判沙汰になり双方痛み分けとして決着がつい

た。その間、私の癌疾患が見つかり2度の内視鏡による手術を受けた。決してそのことが素となって弱気になっていたわけではない。むしろ学校への最後のご奉仕として頑になっていたのかもしれない。大学は設立の理念がそれぞれにあって創立されるもの。たまたま同じ分野であったとしても名称を先輩校と同じくしようという考えは今以て納得し難い。法律上は許容の範囲であるのかも知れないが、巢立っていった沢山の生徒達の心情をどう受け止めていいのか。同情の余地もない。

2021年8月吉日

同窓会「象の会」相談役

上村 淳之

大学移転整備について ＜支援寄付御礼と引き続きのご協力お願い＞

令和3(2021)年5月、京都市立芸術大学の移転整備工事がいよいよ始まりしました。まず初めに、最も工期が長いC地区、そして7月にはA地区でも着工され、残るB地区も9月の着工が予定されています。

「移転整備募金」の取組みもコロナ禍により制限のある中、理事長を先頭に積極的に取り組んでおり、同窓生の皆様からも、7月末現在で、7,950千円ものご寄付をいただいております。皆様からのこれまでのご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き、移転整備に対しまして、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(移転準備室)



C地区の工事現場 2021年7月撮影



2021年度役員総会の報告

今年（2021年）の役員総会は7月4日（日）に「からすま京都ホテル」で開催する予定でしたが、コロナの蔓延防止措置が解除されず、中止せざるを得ませんでした。返信ハガキによる議決権行使によって、提案の5議案は全て承認されましたので報告申し上げます。注：7月20日締切りまでに届いた有効議決権行使書は49通（60.5%）で、全議案承認が48通（59.3%）、5号議案のみ無効が1通（1.2%）でした。

なお役員総会直後の7月20日に和解となった「大学名称問題」は議案書に反映していませんのでご了承ください。

1号議案 2020(令2)年度 事業報告

2020年は母校の創立140周年を祝う記念すべき年でしたが、新型コロナウイルス蔓延防止の「緊急事態宣言」が発出され、お祝いムードでは無くなり、本学でも学校閉鎖とリモート授業を余儀なくされ、全く初めての経験に戸惑いながらの1年でした。

同窓会も2020年は、5年毎に開催の総会・懇親会の年でしたが、中止せざるを得ませんでした。また、唐突に対応を迫られた「大学名称問題」も大きな事件で、本学が裁判に訴えたにも関わらず旧造形芸術大学側が20年度から「京都芸術大学」の名称を一方的に使用する事態となり、名称使用反対の行動を求める怒りの声が同窓生や市民に高まり、音楽学部の同窓会と一緒に「京都芸術大学の名称を守る会」を組織して署名活動などの反対運動を開始しました。併せて裁判支援カンパ活動にも取り組みました。しかし大阪地裁1審判決は、我が校の主張が要られず敗訴。本学は直ちに大阪高裁へ上告しました。2021年7月8日に判決の予定です。

明るい話題としては、2023年度予定の京都駅東への大学移転の整備工事がスタートしました。同窓会では、移転支援を目的としたアートオークションを2021年3月に開催すべく準備を進めてきましたが、コロナ感染防止と経済環境悪化のため2022年3月に延期。しかし状況が好転しないため更に2023年1月まで開催を延期することとしました。

また、大学創立140周年を記念した「同窓生名簿2020」発行は、皆様の協力を得て8月に完成し頒布することができました。

主な同窓会活動は次の通りです。

1. 新入生に入学記念品 書籍「京都芸大130年の歩み 京の美都の響」贈呈
2. 同窓会象の会総会・懇親会（からすま京都ホテル 7月5日）がコロナで中止。上村淳之会長から望月重延会長に交代
3. 役員改選に伴う大学との顔合わせ
4. 総務委員会開催（5月、11月）
5. 「会報 象」71号（9月）、72号（2月）発行と編集委員会の開催
6. アートオークション実行委員会開催（6月18日 1月15日）
7. 大学支援（本年度は大学からの支援申請なし）

8. 芸大作品展同窓会賞授与（13点:賞状・賞金）
9. 卒業・修了生に御祝 「同窓生名簿2020」贈呈
10. ホームページ運営委員会（ホームページの保守・管理・更新）
11. 「同窓生名簿2020」関連
口絵写真撮影（5月8日ドローンで大学構内空撮）
第5回同窓生名簿編集委員会（5月19日）エミナースにて
「同窓生名簿2020」の発行と頒布開始（8月）
12. 「大学名称問題」関連
瓜生山学園が20年度から「京都芸術大学」の名称を一方的に使用し始めた動きに対し、美術/音楽両同窓会は4月に「京都芸術大学の名称を守る会」を組織して反対署名活動と裁判支援カンパ活動を開始
集まった署名簿を大阪高裁へ提出（2月）
大阪高裁口頭弁論 2021年3月4日 傍聴
2021年3月末、集約の署名数23,583筆
（署名簿18,159、web5,424）
年度末に名称裁判支援カンパを大学へ寄付（205万円）
他: 同窓会後援名義の申請 2件
同窓生の作品展の会報掲載 37件
祝電 2通
お悔やみ 2

2号議案 2020(令2)年度 会計決算・監査報告

本年度は大学創立140周年記念の「同窓生名簿2020」の発行や大学移転支援「同窓会アートオークション」の準備、大学名称問題の裁判支援など重要な事業を実施した年でした。しかし予定していた総会懇親交流会や各種会議が新型コロナ感染防止のため軒並み中止せざるを得ない状況となり、その分支出が減少しました。また、大学名称裁判で1審敗訴となり高裁へ上告する裁判費用支援のためのカンパを呼びかけ、両同窓会で205万円を年度内に大学へ寄付することができました。会費収入では終身会費の納入が伸び、当面の財政基盤強化に役立っています。「同窓生名簿2020」事業も特別会計から400万円を借り入れて予算内で発行することができました。

結果、一般会計で収入1,493万円、支出973万円、繰越520万円。事業基金特別会計で収入2,282万円、支出400万円、繰越1,882万円。名簿特別会計で収入692万円、支出568万円、繰越124万円。合計2,526万円を次年度に繰り越しました。会計監査は5月27日に実施しました。

3号議案 2021(令3)年度 事業計画

2021年度も新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄される不安定な年で始まりました。経済、文化など社会への影響も深刻で、同窓会も新たな事業計画を考えにくい状況にあります。また、7月に高裁判決が出る「名称問題」も予断を許さず気を重くさせます。改めて同窓会は大学の応援団に徹する立場で、引き続き大学の方針を支持しサポートして参ります。

併せて、2023年度の大学移転に向け、美術教育に必要な設

備機材の充実を支援するために「同窓会アートオークション2023」の実施と成功に向けた実行委員会活動を継続し、幅広い入札が期待できるイベントとなるよう努力します。

また、本年を同窓会の次の飛躍に向けた準備期間と位置づけ、経常事業の活動を充実してまいります。

・経常事業計画

1. 新入生に入学記念品 書籍「京都芸大130年の歩み京の美都の響」贈呈
2. 役員総会・懇親会（7月4日）《コロナのため中止 提案5議案は議決権行使で成立》
3. 総務委員会の開催（4月12日 2回目は秋に開催予定）
4. 「会報 象」の発行（9月と2月、編集委員会の開催）
5. 「真声会」との連絡会議開催（夏に予定）
6. 会誌、会報の合本（過年度実施） 6月
7. 大学支援（大学からの要請に基づき実施）
8. 芸大作品展同窓会賞授与（13点予定） 3月
9. 卒業・修了生に御祝い 「同窓生名簿2020」贈呈 3月
10. ホームページ運営委員会（ホームページの保守・管理・更新）
11. 同窓会後援名義の使用許可

12. 同窓生の作品展（個展、グループ展など）の会報・HPへの掲載

13. 慶弔に関すること

・重要事業計画

- ①京都芸術大学名称使用差止裁判解決のため大学を支援し応援する活動の継続
- ②大学移転支援「同窓会アートオークション2023」実施のため実行委員会の継続開催

4号議案 2021(令3)年度 予算

本年度は、新規重要事業の予定も無く、予算も経常業務執行型の予算としました。

その結果、一般会計で収入930万円、支出840万円。事業基金の収入2,290万円、支出0円、名簿特別会計の収入200万円、支出86万円としました。

5号議案 2021(令3)年度 役員幹事の補充と確認について

下記名簿のとおり

（代表幹事:野崎邦雄）

同窓会役員名簿

名誉会員	中西 進	潮江 宏三	建畠 哲	鷺田 清一
相談役・顧問	上村 淳之（相談役）	中井 貞次（顧問）		
名誉会長	赤松 玉女（理事長・学長）			
名誉副会長	上田 誠（副理事長）	後藤 天平（事務局長）	小山田 徹（美術学部長）●	栗本 夏樹（研究科長）
	学 内	学 外		
会 長		望月 重延（1967（昭42）塗）		
副会長		出井 豊二（1973（昭48）D）	小山 格平（1976（昭51）D）	阿部 緑（1983（昭58）染）
代表幹事	安井 友幸（漆工）	野崎 邦雄（1969（昭44）洋）		
会 計	藤本 英子（環境D）	小畑 剛（1970（昭45）洋）		
監 査	長谷川直人（陶磁器）	水野 收（1979（昭54）日）		
幹 事	三橋 卓（日本画）	三宅 五穂（1951（昭26）彫）	中井 貞次（1954（昭29）染）	上村 淳之（1957（昭32）日）
	金田 勝一（油画）	榊原 吉郎（1957（昭32）洋）	芦田 裕昭（1959（昭34）日）	伊藤 義明（1959（昭34）図）
	田中 栄子（版画）	舞原 克典（1961（昭36）洋）	二階堂 忠（1962（昭37）洋）	川口 凱正（1963（昭38）日）
	金氏 徹平（彫刻）	佐野 賢（1966（昭41）彫）	古川加津夫（1970（昭45）D）	鶴田 憲次（1971（昭46）洋）●
	人長 果月（構想設計）●	竹内 三雄（1972（昭47）彫）	中野 順二（1972（昭47）塗）	辻 喜代治（1973（昭48）塗）
	滝口 洋子（VD）	佐藤 敬二（1974（昭49）D）	岩間 香（1977（昭52）日）	酒井 雅子（1978（昭53）洋）●
	高井 節子（PD）	塚田 章（1979（昭54）D）	松尾 恵（1980（昭55）染）	松本 陽子（1982（昭57）版）
	日下部雅生（染織）	市川 博一（1982（昭57）陶）	東田 幸治（1983（昭58）油）	児玉 靖枝（1984（昭59）油）
	田島 達也（芸術学）	村岡 幸信（1985（昭60）日）	河原 有伽（1986（昭61）版）	茶谷 文子（1986（昭61）PD）
	飯田 真人（教職）	谷本 天志（1989（平1）油）	安藤 吉準（1989（平1）構）	辻野 宗一（1990（平2）日）
		新田 恭子（1990（平2）染）	裕 康治（1991（平3）日）	安井 健二（1992（平4）VD）
		渡邊 野子（1993（平5）油）	福岡 崇（1994（平6）PD）	吉岡 佐知（1995（平7）日）
		新道 牧人（1997（平9）彫）	福本 双紅（1997（平9）陶）	正垣 雅子（1998（平10）日）
		新道 尚美（1998（平10）陶）	川越 里美（1998（平10）陶）	北里美絵子（1998（平10）染）
		黒川 彰宣（1999（平11）彫）	徳永 杏子（1999（平11）VD）	小川久美子（1999（平11）染）
		関林 宏祐（2001（平13）日）	谷口 晋也（2001（平13）陶）	吉岡 千尋（2004（平16）油）
		谷澤紗和子（2005（平17）油）	久門 剛史（2005（平17）彫）	佐野 曉（2005（平17）漆）
		吉岡きくみ（2007（平19）環D）	公庄 直樹（2007（平19）漆）	中川 愛子（2008（平20）環D）
		中村 潤（2009（平21）彫）	澤村 春菜（2010（平22）日）	萩原 佳奈（2010（平22）漆）
		村井 都（2013（平25）版）	薮野 志織（2014（平26）芸）	多田 晶子（2014（平26）染）
		田村 美有（2016（平28）PD）		

●印は新任

「京都芸大同窓会アートオークション2023」開催予告（アートオークション2023実行委員会）

詳細は実行委員会で決定後、「会報象」74号（2022年2月発行）に掲載します。

日 時：2023年1月6日（金）～9日（月）（4日間） 会 場：京都市堀川御池ギャラリー、@ KCUA 全館

野球部

河野(旧姓：臼井) 登

(1972年工芸科デザイン専攻卒業)

(カットは筆者)



今から50年程前の部活の記憶をたどりながら記してみます。部員名が出てきますが敬称略とします。



1970年 京都市立芸術大学 グランドにて

1969年(昭和44年)

私はこの年に京都市立美術大学に入学、すぐに、大学名が、京都市立芸術大学となりました。当時の校舎の場所は、京都市東山区今熊野にあり、校庭に丸池があり、その奥に野球部の練習グラウンドがありました。北校舎端にバックネットを置き、レフトは山の斜面、センターは資料館の壁、ライトは塀を超えると校外の民家に打球が飛んでいく狭いグラウンドでした。週3回放課後の練習があり、同じグラウンドで、ラグビー、サッカーの練習もするので前日雨天後の整備が大変で、しかも、準硬式のボール(トップボール、独特のパウンドをする)を使うので、捕球にはイレギュラーの危険を恐れず慣れる必要がありました。当時は、パレーボール部、ラグビー部が盛んに練習もしていて強く、三美祭では野球部は東京芸大が強く、京都美大は最後に守備の乱れで負けるあり様でした。秋には大学紛争、冬休み中に南校舎が焼失、野球部の用具一式等も焼失してしまいました。



1970年 京都大学グラウンドにて



1971年 日吉高校グラウンドにて

1970年(昭和45年)

大阪万国博覧会が開かれた年の2回生の春に、私は正式に野球部に入りました。ユニフォームの新調、用具の買い揃え(打者ヘルメットの着用がルール化された)からのスタート。部員は10名強でした。部員は、彫刻、日本画、洋画、染織、陶磁器、デザインなどいろいろな専攻から野球好きが集まってきていました。練習の合間に、野球部OB、専攻科の方が、ノックしに来られたり一緒にプレーしたりもしました。暑い日に練習後、汗で泥んこになったままの姿でスパイク脱いで、丸池に飛び込む者までいました。女子マネジャーも常に3~4人がお世話にあたってくれていました。

この年の三美祭は、京芸大が主催で、吉祥院球場などで試合し、なんと強豪東京芸大にも快勝して優勝しました。矢野哲朗-金ヶ江和隆のバッテリー、渡辺勤と臼井登の二遊間守備充実で大事な時の失点がなくなり、和田教義の長打力も功を奏しました。当時の野球部監督でもあり陶磁器科教授の近藤豊氏が、地元京都での久しぶりの優勝をたいそう喜んで、ご自宅に私たちを招いて優勝祝賀夜会を開いてくれたのも嬉しかった思い出です。

1971年(昭和46年)

3回生になり、野球部の部長は臼井、主将が矢野で、練習のメニューや試合の計画を組みチーム強化を図っていきました。練習後はシャワー室もなく、校舎裏の水道で、ユニフォームの洗濯や、身体拭きをしていたのですが、学生課に頼み、やっと部室ができました。用具の整理や洗濯干し場ができて助かりました。金ヶ江が「OB会報」を作り、OB戦(現役と交流できる試合)を企画し野球部の組織強化も図ってくれました。

この年の三美祭は、金沢美大が主催で、兼六園球場(数日前に長嶋茂雄がサヨナラ本塁打を打った球場)で試合できました。京芸大は優勝して2連覇を果たしました。矢野-和田のバッテリー、堅実な内野守備力、兵後幸男、中篤夫の走力と佐野憲司、竹岡雄二の打力が活きました。一方、四芸大を意識して、愛知県立芸術大学との交流が始まり年1回は試合することとなりました。



1971年 淡路島夏季合宿

1972年(昭和47年)

この年の三美祭は、東京芸大が主催、駒沢球場などで試合して、見事に優勝3連覇を達成しました。矢野-和田の黄金バッテリー、左利き一塁手の馬場政則、声が響くセンターの青野卓司や三塁手の吉田誠の強打に、岡田潔、金森一博、久保良裕の若い走力が勝利を重ねる原動力となりました。愛知芸大との交流戦では愛知県に遠征しました。OB鈴木八十二がいつも笑顔で積極参加してくれました。4回生の秋になって、部長を馬場、主将を青野に引継いで、後輩達に四芸祭連覇を託すことになりました。



1972年 四芸祭試合の後で



1972年 愛知遠征

50年前の野球部の模様から

練習試合相手は、準硬式野球部なので、京都大学、京都薬科大学や龍谷大学の準硬式野球部など。試合会場は、相手大学グラウンドや、高校のグラウンドや、西京極球場や岡崎公園グラウンドなどで行われました。ある日、同志社大学準硬式野球部との練習試合では、試合前に相手主将から「僕たちふざけた試合はしたくないのです。全国大会前です。」と言われました。私達は芸術家ぶった長髪が帽子からはみ出しており、相手チームのユニフォームの着こなしとは随分差があったのは事実です。しかしながら試合は2対2で引き分けとなったので、相手は途中から焦り、のびのびと野球を楽しむ自分たちが強いレベルになっているのを確信できたものでした。部員達は、それぞれの専攻の創作に没頭する傍ら、野球で結ばれた仲間として、練習後の夕食を、河原町や百万遍や北山通りまで食べに行ったり、年末には嵐山や五条で納会やったり、夏合宿は淡路島や島根県でやったり、芸大祭では「壘」という怪しげな店を出したりと、青春を謳歌すると共にチームワークと友情を温めあいました。OBや多くの教授にも温かく見守ってもらい、学生課の方にはネット調達な

ど大変お世話になったのも忘れられません。キラキラとした青春を、部活で経験させていただきました。



大学卒業後

私自身は、臼井から河野に名前が変わりましたが、就職も野球に関係のある、スポーツ用品会社「ミズノ」に入り、デザインとスポーツに永きに渡り携わってきました。当然、野球品の開発にも関わり、ミズノランバードライン(マーク)創出という仕事も成せました。仕事の合間に、職場野球、草野球にも参加してプレーを続け、息子達の少年野球の監督もつとめたりで、常にバットやグラブの有る生活を過ごしてきました。ある大学での講演や、デザイン審査の場で、野球部OBや経験者の方にもめぐり合い大変お世話になったこともあります。そんな時は野球の話に華が咲き、「大学で打撃好調の時はボールが止まって見えただ！ 5割は打った！」と、リーディングヒッターを豪語される方もおられました。昭和55年に西京区杵掛に大学移転してからも、11月の芸大祭にOB戦を行ってくれたので、後輩との楽しい交流もでき、音楽学部メンバーが加入していること、女子の選手も参加しているなど、様変わりとお変遷を感じとり眼にするのも楽しいものでした。

定年退職しての現在は、還暦軟式野球連盟のチームに所属し、71歳の現在もプレーを続けています。一方、兵庫県の連盟事務局として野球振興の世話もしています。野球イラストを描いたり、LINEのスタンプを創作したりもしています。それぞれ定年や退職を迎えた当時のチームメートとは現在も年1回程度の連絡を取り合っておりゴルフを楽しんだりもしています。思い返すと、大学時代の部活がその後の人生に脈々と活きている気がします。今後、京芸大が新しいキャンパスに移転しても、野球部の息吹は継承して欲しいと願っています。

令和3年度後期

芸術資料館収蔵品展 (2021.9 ~ 2021.11)

開校140年の本学の教育史において、当館の収蔵品は蓄えられてきました。今年度の第1期「素描 線の跡を見つめて」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期を4月27日(火)までに繰上げ開催しました。第2期「新収蔵品展 2019-2021」は、昨年度コロナ禍のため学内初お披露目が叶わなかったものを合わせた2年分の新収蔵品を展示しました。第3期「にんきもの 収蔵品貸出ランキング展」は、当館の収蔵品約4,300件・約42,000点の中で1996年から2020年までの25年間の記録において、学外貸出や写真原板貸出の依頼が多かった作品・資料を紹介しました。9月からは以下の展示を開催しますので、皆様のお越しをお待ちしております。

第4期

「平成の日本画」

9月14日(火)~10月17日(日)

平成時代に制作された本学ゆかりの画家による日本画作品を展示します。平成は新たな千年紀を迎えた時代で、歴史の節目を感じさせます。日本画の世界でも、変化は明確になってきました。本学の教員をつとめた岩倉寿、小嶋悠司、竹内浩一、山岸純、山崎隆夫ら日展や創画会など美術団体で活躍する作家のみならず、本学に学んだ畠中光亨、林潤一らのように新しい枠組みの中で活躍する画家たちが増えていく時代です



山崎 隆夫
《向日葵》1991年

第5期

「KYOTOのYUGA! 油彩画コレクション展」

10月23日(土)~11月28日(日)



須田 国太郎
《走鳥》1953年

当館には、200点を越える油彩画のコレクションがあります。本学卒業生や元教員、京都出身者など京都にゆかりのある作家たちの作品で構成されています。その中から、特に戦後から現代にかけて制作された作品を中心に紹介します。(本展は中止となった令和2年度第1期展の振り替え展示です。)

新任あいさつ（2021年4月新任）

彫刻研究室 准教授（現代美術）

安藤 由佳子



26年ぶりに生活の拠点を日本に戻し、本年4月より彫刻専攻に着任いたしました。

私は京都精華大学の立体造形を卒業後、ドイツのデュッセルドルフ芸術アカデミーで学びました。ドイツに20年、その後アメリカに6年、異文化に触れながら都市生活の中からうまれる興味や疑問を手がかりに作品を作り続けてきました。「ありきたりな日常を幸せにおくれる社会」、そのような祈りにも近い理想の社会を思い描きつつ、あくまでも私個人を出発点にした作品制作を心がけて参りました。そこにはいつもマイノリティーの立場にい

た自分を見つけますが、友達、地域、如いてはリベラルな社会制度に支えられていたことに気づきます。ドイツでは国籍を問わずアーティストとして守られながら制作できる有難さ、アメリカでは多様性に揉まれながら自由と平等を獲得してゆくガッツを学びました。

私は美術教育にとどまらず、私が海外で経験した様々な事を学生たちに発信してゆきたいと考えています。若者たちが、多様性を尊重しつつ、力強く進んで行けるよう、そしてより良い社会を作って行けるよう、自分ができることをやって行きたいです。

染織研究室 講師（ろう染・身体翻訳）

安藤 隆一郎



ろう染は制約ある染織技法の中でも自由で柔軟な表現ができる技法です。ですが、それゆえにろう染による作品制作は奥深く、表現力が問われる技法です。本学では小合友之助先生にはじまり、佐野猛夫先生、来野月乙先生、三浦景生先生。そして、井俣慶人先生、三橋遵先生と、歴代の先生方が作家として表現方法を展開して来ました。

2009年に本学の修士課程を修了した私は「ろう染による色の奥行き」を大切にしながら独自の表現を追求して来ました。制作活動はろう染にとどまらず、水中での作品展示や工芸作家のコレクティブとして共同制作やリサーチ、建築へのアプローチなど多岐に渡る実践からろう染及び染織の可能性を探って来ました。そして、近年はろう染制作における身体技法を着想としてはじめた「身体0ベース運用法」という、日常や地域文化に見られる身体を

美術表現を用いて翻訳し、作品やワークショップを通して伝える活動をしています。一見、染織とはかけ離れた取り組みですが、制作の中で棕櫚から棕櫚縄を作る船頭の技術といった染織の原点となるようなものづくりに出会うことがあり、以前は持っていなかった染織に対する新しい視点を日々発見しています。染織による表現のフィールドは工芸の枠から現代美術へと広がりはじめたことで、表現方法も変化を見せています。また、染織を学ぶことの意義も単に作品として表現するだけでなく、その思考方法を広く応用することも求められていくことと思います。本学染織専攻に講師として着任した本年度からは、教員として学生の皆さんとともに新しい染織の可能性を発見していきたいと思っています。

構想設計 准教授（現代美術）

木村 友紀



本年4月より構想設計の准教授に着任いたしました木村友紀です。私は本学の油画専攻出身なのですが在学中から絵画を作って来なかったこともあり、母校で教えることはこれまで全くの想定外でした。そんな私の想定を大きく覆したのは構想設計に女性限定で募集があったことでした。このことに対しては様々な意見があることが想像

されますが、私にはとてもポジティブなメッセージとして響きました。学舎移転を見据えて京芸が変わろうとしているとしたら私は参加したいと思いました。これまでの長い年月をかけ継続してきた作家活動の経験を活かして現代の美術教育のために努力していこうと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

構想設計研究室 特任准教授（現代美術・メディアアート）

人長 果月



本年4月より着任いたしました。在学時は佐野賢先生、中井恒夫先生、砥綿正之先生のご指導の元、造形・映像・コンピュータなどメディアの枠を超えた幅広い知識と表現の愉しみを体験する機会を戴きました。大学院修了後に作家活動を始め、非常勤講師としてメディア・テクノロジーを活用した教育を行って来ました。

構想設計は設置当初から、そのときどきの社会背景や所属する学生・教員によって教育のかたちや枠組みが変化してきました。それは時代の要求に応えるということではなく、美術の深化、制度の変容の中で、先鋭的な美術教育の場を創成するための試行錯誤です。この思いに迎えてくれる学生数が増えたことは喜ばしく、教室始まって

以来の4人目の教員として、一端を担うことになりました。学生の思考も多様化し、より複雑な指導が求められていますが、前例のない制作に取り組む際に生まれる前向きな苦しさや、成長を期待できる難題について共に悩む面白さがあります。

自身の専門分野である映像・メディア技術と美術表現との融合から生まれる構想力を学生に伝えることを責務として、恒常的な自己模倣に陥ることのない現代の“構想設計”を模索しています。先生方、先輩方を手本とし、学生が主体性を持って未来に向け新たな道を切り拓ける教室になるよう、努めていきます。



この度4月より版画研究室に専任講師として着任致しました王木易と申します。

私は2013年に東京藝術大学の油画専攻を卒業し、2020年に同大学大学院の絵画研究科版画領域にて博士課程を修了しました。私自身は京都という土地にこれまでご縁がありませんでしたが、実の所東京のみならず、日本にも血縁はありません。したがって、京都も東京も私にとっては、まず等しく「日本」という場所です。

私の専門とする木版画は、版画技法の中でも最も原始的なものです。木版印刷は仏教や紙製法と同時期に日本に伝来したと言われていいます。伝播される情報(イメージと文字=力)があり、それを複製する技術としての木版印刷、メディアとしての紙が揃うことで、特

定のイメージを共有する共同体が形成されてきたと言えます。何かと何かが繋がるということは、何かと何かの間に境界を引くことでもあります。私はこのような境界の象徴としての言語や文字、それらを巡る行為を、木版画という身体的なメディアを通して表現してきました。

インターネットとテクノロジーは人と人のかつて存在していた多くの壁を取り払いましたが、同時に多くの矛盾を生みます。芸術とはその矛盾を解消できないにせよ、向き合うべきものだと思います。かつての情報伝達メディアとしての木版画は、現代では代替不可能な物質性と身体性を兼ね備えた表現メディアとして機能しています。その可能性を、日本の古都で心を新たに探っていきたいと思います。

オンライン芸大祭 2021 開催決定

「片道切符でまちあわせ」

今年度芸大祭のメインテーマです。他人の世界と自分の世界、本来交わることの無い“場所”を訪れる『旅』を全体的なイメージに挙げて、新たな表現や出会いの可能性を感じる場を目指します。旅先で見たもの、触れたもの、出会ったものが自分の一部になっていき、自分もそれらの一部になっていくというゆるやかな互換性にフォーカスを当て、日常と非日常、他人と自分という境界の曖昧さを味わうような、自らが訪問者でもあり歓迎者でもある、今だからこそ出来る旅の提案です。今まで伝統で通せていたものがそれでは通せなくなり、当たり前が大きく変わり続けています。そんな渦中に行われる祭りとは何なのか、誰が求めているのか、新たな繋がりや形を求めてもが先に何があるのか。コロナ禍で失ったものはたくさんあります。例えば、新しい学校で誰と会えるのだろう、だったり、例えば来年一緒に展示しようね、だったり。来年はこういう企画やりたいね、来年またここで会おうね、来年が楽しみだね、だったり。多くの約束が破られてきました。小さな明日を生きる希望が少しずつ消されていくのを感じつつ、何もできない日々を少なからず体験しました。不要不急と位置付けられた芸術に何が出来るのか、どうしても希望を灯し続けられるのか、どうやって不安定な未来の当たり前を作れるのか。新たな可能性を切り開くことの重要性を再確認する機会にもなりました。そんな中で今年の芸大祭は実地の代替案ではなく、オンラインだからこそ出来る芸大祭を作ります。音楽学部・研究科の演奏を届けたり、五芸大でオンライン共同企画をしてみたり、VR空間で祭りをしてみたい、紙媒体の冊子を作ってみたり。こんなものが方じゃ万人に届きはしないとしても、少しでも芸大祭に興味を持っている人に触れられるように、一歩踏み出した人の手に届くように。そこから旅が始まるような、旅を始めるような芸大祭を作ります。



芸大祭ウェブサイトのURLは、学校のホームページのイベント情報や芸祭の公式SNS(Twitter →@kcua_2021とInstagram→kcua_2021)へ掲載する予定です。10月30日から公開いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

芸大祭実行委員長：藤田梨央(美術科2回生)

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と
出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

じょう あいね
城 愛音

2017年(平29)油画専攻卒業
2019年(平31)絵画専攻(油画)修了



「はじまり」

「こんにちは、作家の城愛音です。」

近頃は、有り難いことにメールやメッセージの文頭でこんな
風に挨拶をすることが増えました。私が“作家”であることに自
信と緊張感を持てるよう、まずはいつもこの挨拶をしています。

大学院を修了して3年目。現在は奈良市内に住みながら、京都
府城陽市のシェアアトリエにて制作活動をしています。入居当初
は「城(じょう)に陽(ひ)が当たるなんて縁起の良い名前やん。」と
浮かれてやってきた場所。実際はいろいろと大変な事もあり、元
工場だった倉庫を改装したスタジオ内は、夏は40℃を超える酷暑、
冬は筆を持つ指も動かなくなる程の厳しい寒さになります。そん
なKIKUE STUDIOも去年には4人メンバーが入れ替わり、すっ
かり雰囲気を変えました。私は普段より、家族や身近な人物を題
材に作品制作をしています。まさに環境と人間関係の変化が、絵
を通して現れている事を実感しています。

また、“作家”である以外にも、“城先生”と呼ばれることが日
常的になりました。修了して2年間は、お世話になった油画専攻
で油画基礎の授業を担当していました。基礎生と共に課題を進
め、作品について話し合う時間はとても楽しく貴重な経験でし
た。そんな8年間を過ごした杳掛を離れ、2021年4月からは高校
にて美術の先生をしています。

長年、片道2時間もかけて通った京芸。今はようやく卒業した
ような心地です。寂しい気持ちもあり、反面で解き放たれたよ
うな…。私にとっては、ここからが本当の始まりなのかもしれ
ません。



かんの りつお
神野 立生

1969年(昭44)日本画科卒業
1972年(昭47)専攻科修了
1972～74年 フランス政府給費生



「銅版画工房アトリエ凹凸」

ポップアート全盛の頃に学生時代を過ごし、安保闘争で大学
は封鎖され、迷いに迷いパリに留学しました。その間、いろ
んな版種を試み、自身を見つめ表現する手段として体質に合っ
たのが銅版画です。2年目に通っていた工房は、世界中からキャ
リアの異なる作家達が集い大変刺激的でした。日本にもこの様
な場を創りたいとの思いで1975年に銅版画工房アトリエ凹凸を
開設しました。

2008年から版画を通じ、世界に発信していこうとする活動「曙
プロジェクト」を企画し国内外で交流展を開催しています。現在
は、「版」による表現の拡りを求め、版を試みたことのない作家
にも呼びかけ「OUTOTSU版展」を展開し、2022年5月には第3
回展を東京都美術館で開催予定です。

普通のマンションの部屋をロフトの様に改装し、今では14部
屋にも及んでいます。メンバーに呆れられながらも懸案だった
多目的ライブラリーを現在制作中です。訪ねて来た人たちは驚
かれますが、理想の工房を追い求めているとマンションの扉の
中は別世界になってしまいました。

コロナ禍の厳しい状況下でも、個性的でわがままなメンバ
ーたちの創造への思いの熱さが私にも刺激的です。振り返れば、
多くの方々との出会いに支えられて今が在るのを痛感していま
す。

ある女史に『時間が足りなくなってきたわね。私は110歳まで、
あなたは100歳までは頑張って活動しなさいよ。』と叱咤激励さ
れました。これをお題目に突き進んで行きたいと思っています



次号に紹介される方は、
うえもり きょうこ
上森 響子さん

2017年(平29)版画専攻卒業
2019年(平31)絵画専攻(版画)修了



次号に紹介される方は、
ふじた いちろう
藤田 一郎さん

1970年(昭和45)日本画科卒業

2020 年度

「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品 (13 点)

会期＝2021年2月10日～14日 会場＝京都市立芸術大学、京都市京セラ美術館



細見美術館所蔵『吉野花見図屏風』部分模写
中村 美葉
美術研究科 絵画専攻 日本画 2回生



POP ICON
武本 瑠香
美術学部 美術科 油画専攻 4回生



Null Island
肥後 亮祐
美術研究科 絵画専攻 構想設計 2回生



When that old river runs pass your eyes
梁 蘭若
美術研究科 絵画専攻 版画 2回生



コンクリート・ツチ・ジャングルジム
長谷川 湧希
美術学部 美術科 彫刻専攻 4回生



あだうち
真鍋 綾
美術学部 デザイン科 ビジュアル・デザイン専攻 4回生



蟻の目で考える再開
西 鞠乃
美術研究科 デザイン専攻 環境デザイン 2回生



注がれ注ぐ
藤木 美里
美術学部 工芸科 陶磁器専攻 4回生



白変塗旅行鞆ーよわのつきー
南場あかね
美術研究科 工芸専攻 漆工 2回生



The bubble wrap chair / The bubble wrap chandelier
藤原 海童
美術研究科 デザイン専攻 プロダクト・デザイン 2回生



ワガヤマツチ レキシラベル
樋之内 亜湖
美術学部 工芸科 染織専攻 4回生

<論文>

円山応挙の虎
ー虚実の間の動物を描くー

田部 未紗
美術学部 総合芸術学科 総合芸術学専攻 4回生

<論文>

平家納経・厳王品における装飾技法の研究
ー想定復元模写を通じてー

盧 琬京
美術研究科 保存修復専攻 保存修復 2回生

●**裁判が和解** 提訴から2年、本年7月20日に当事者間で和解が成立し、裁判の幕が下りましたが、和解内容は目指したものからほど遠く、納得感が薄いように思いました。その評価は人それぞれでしょうが、判決を避けて和解を勧めた裁判所のご苦労はよくわかります。

●**大学移転** 7月11日に大学移転工事の起工式が終わり、京都駅東地区で工事が本格的に始まりました。京都市は建物(入れ物)建設の責任を果たされ、その魂(中身)を磨く重い責任が大学に託されました。工事の進捗に身の引き締まる思いがします。

●**会報・会誌の合本** 同窓会報象、会誌「象」の創刊号から最新号までの合本(2セット)が完成しました。

同窓会報象合本(1972年の創刊号から2020年の71号まで)

会誌「象」合本(1979年の創刊号から2013年の最終34号まで)

●**裁判費用** この度の裁判支援のため呼びかけたカンパで192万円ほどが集まり、大学へ255万円を寄付しました。裁判に要した当方弁護士費用は1,700万円と聞いており、その一部に役立

てることができました。ありがとうございました。

●**払込手数料の値上げに対応** 現在、同窓会費や名簿代金などの納入に利用しているゆうちょ銀行の手数料が2022年1月17日から値上げされます。(現金で払込む場合)

同封の払込取扱票(料金受取人負担)を使って1,000円をATMで現金で払込んでいただいた場合、同窓会の負担は152円(窓口の場合は203円)で、払込人の負担は0円でしたが、2022年から同窓会の負担152円に加えて払込人の負担も110円かかるということです。

終身会費への移行や年会費を数年分まとめて納入、お持ちのゆうちょ銀行や他金融機関の口座から送金できるシステムへの変更などを今後検討していく必要があります。

●**「同窓生名簿2020」** 2020年8月に発行しました「同窓生名簿2020」、まだ在庫があります。希望される同窓生の方は同封の郵便振込用紙で4,000円を振り込んでください。同窓会費納入済み同窓生一人1冊です。折り返し送ります。

次の場合は、事務局までご連絡ください

● 同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援を希望される場合。

● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

● 満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

● 氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

同窓会会費の納入をお願いします

会費の納入状況は同封の払込取扱票に印字されていますので、未納の方は納入くださいますようお願いいたします。ページ上に記載のゆうちょ銀行の口座宛てに振り込んでいただくこともできます。

編集後記

●延期され開催が危ぶまれた東京オリンピック2020も前代未聞のコロナ禍による緊急事態宣言のもと、異例尽くしの開催となりましたが、多くのメダリストを輩出し、選手の活躍に多くのドラマを見ることができました。

●コロナ変異ウイルスが猛威を振るい、新型コロナウイルス感染者は国内で100万人、世界で2億人を超え、パンデミックの収束の終わりはまだ見えず不安が募ります。日本でも第5波を迎えた8月は猛暑と相まってマスク着用も息苦しく、何より若年層を含むワクチン接種の迅速な拡大が待たれます。

●大学では昨年度と同様、授業は遠隔を基本とし、実技は細心の配慮のもと、対面で実施され前期が終了しました。芸祭や五芸祭なども通常の開催はできませんが、五芸大が繋がる合同企画の公式アカウントが始動するなど、オンラインという新たな形で物理的な距離を乗り越えた盛り上がり期待できそうです。

●大学移転計画も2023年をめざし進められています。多くの市民の皆様に移転を知っていただくためのロゴマークも作成されました。新天地でのスタートを前に校名問題が影を落としましたが、本号にも掲載しました通り、最終的には和解に至り、瓜生山学園の「京都芸術大学」校名使用は止められず残念ではありましたが、「京都芸大」「京芸」という通称、略称を守ることができたことは何よりでした。

●コロナ禍も一進一退を繰り返し収束にはまだ時間を要する様子ですが、どうぞ皆様、ご自愛下さいませ。

●本報73号発刊にあたりご投稿、ご協力いただきました方々に厚く御礼を申し上げます。引き続き、皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

(同窓会報編集委員長：阿部 緑)